

クラス番号	635	担当教員名	大林 由美子
テーマ	0 歳から 100 歳の地域包括ケアをめざして —すべての人が安心して生活できる地域づくり・場づくり—		
著書・論文 研究課題等	著書・論文 「大規模団地での住民主体による課題解決のプロセス分析—多文化・多世代交流を目的としたサロンでの取り組みから」日本福祉教育・ボランティア学習学会、2020(共著) 「人口減少地域（消滅可能性都市）における人口対策の検討—住民・専門職の年齢別（30～50歳代）意識の比較から」日本福祉大学社会福祉論集、2019（共著）、「社会福祉士養成教育が目指す連携力の検証—多職種連携教育との比較—」日本福祉大学社会福祉論集、2018（共著）、「相談援助実習における地域福祉の学びに関する研究—実習日誌の分析から—」日本の地域福祉、2017（共著） 『ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習』中央法規、2015（共著） 新たな研究課題：単身認知症高齢者の在宅生活継続が難しくなる要因分析		

## ゼミナール概要

キーワード：地域福祉、地域づくり、場づくり、住民主体の課題解決、連携・協働

<目的、内容、方法等>

—はじめに— 本ゼミは、3年次は大林ゼミですが、4年次には原田正樹先生のゼミとなります。共通して大事にしていることは、「**地域福祉の楽しさを伝える（ともに感じる）ゼミ**」にしたいと考えていることです。また、共通したテーマとしては、「0歳から100歳の地域包括ケアをめざして」。地域共生社会の実現にむけて何ができるのか、何を創り出していかなければならないのか、地域福祉実践を通して検討していきたいと思っています。地域にはいろいろな人たちが生活しています。そんな一人ひとりを大切できるのが地域福祉です。

<授業計画>

3年次前期（大林ゼミ）：3、4年生合同ゼミをおこないます。合同ゼミでは、フィールドワークにおいて地域から学ばせていただく機会を設けつつ、地域福祉に対して基礎的な理解を図るとともに、問題意識を広げます。3つか4つのグループに分かれてテーマを決め、共同研究を行う予定です。仲間と問題解決できる（共同研究する）力を身につけます。

3年次後期（大林ゼミ）：他市の取り組み等を調べ、まとめ、プレゼンテーションを行うことを通して自分の考えをまとめていきます。伝える力を身につけます。

4年次（原田ゼミ）：一年間かけて自分自身が納得できる卒論を完成させていきます。この他に夏の合宿、各種セミナー等への参加、各地域へのフィールドワークなども取り入れていく予定です。

## 担当教員からのメッセージ

私は、有償ボランティア（のちにNPO法人）、地域包括支援センター、社会福祉法人等、主に高齢者領域でソーシャルワークを実践してまいりました。そのなかで地域福祉に魅せられ、今も地域の人々とともに活動をしています。地域の中には、SOSを出せずに一人で苦しんでいる人が多くいるのではないかと。一人でも多くの人を、一日でも早く発見し、本人とともに本人にとっての幸せを考えていきたいと思っています。その地域ならではの細かい網目のセーフティネットを作り、誰も取りこぼさない地域をつくりたい。そのためにはどうすればよいかを考え、ソーシャルワークを実践しています。

「集える場」を地域のなかに作ることは、「いつでも誰でも出かけてよい場所」をつくることになります。「行く場所」は、「居場所」となっていきます。また、誰かのために役に立ちたいと考えている人は、地域の中に多くいらっしやいます。集える場を通じて、人と人はつながり、顔の見える関係ができていきます。人と人が集えば、「あの人、最近心配よね」という情報が集まってきます。その時には専門職の出番です。地域住民と専門職、行政職員もつながり、他の社会資源ともつながっていけば、すべての人が安心して暮らすことができる地域をつくることは夢ではないのではないかと考えています。そのような地域を作ることを、一緒に考えてみませんか。